

平成28年度 伊万里小学校 校内研究計画

研究主題

基礎・基本の定着と、自ら学ぶ児童生徒の育成

～ 算数科における「自分の考えを表現する活動」を通して ～

1 主題設定の理由

現代の社会は、新しい知識・情報・技術が政治・文化をはじめ社会のあらゆる領域での活動の基盤として飛躍的に重要性を増す、「知識基盤社会」とあるといわれている。このような社会の中、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」をはぐくむことが重要とされてきた。算数科では、算数的活動を一層重視させ、基礎的・基本的な知識・技能を身につけ、数学的な思考力・表現力を育て、学ぶ意欲を高めるという基本方針のもと実践が続けられてきた。そこでは、子ども達が基礎的な知識・技能を習得するとともに、自ら課題を発見し、その解決に向けて主体的・協働的に探究しながら学ぶ子どもの育成が求められている。

本校では、昨年度、研究テーマを「お互いを認め合う児童の育成」として学級活動を中心とした研究を行っている。昨年度の研究で、子どもたちが学習の中で話し合いやエンカウンター等の活動を通してコミュニケーションする中で、ルールとリレーションを確立することを目指してきた。その結果、友だちとの関わり方が上手になり、関わることの楽しみを見つける児童が増えた。しかし、学級や学校での諸問題を自ら解決していく力や話し合いの高まりは不十分である。

本校の児童は、大規模校であるがゆえ、互いの多様な考えに触れることができる。しかし、相手意識が乏しく他の子どもたちの考えに頼ってしまい、じっくり考えたり、自分の考えを表現したりすることが苦手な傾向にある。そのため、学級集団の中で、少数の児童主体で進む授業に陥りがちである。また、学習道具の準備や、家庭学習の提出率に差が見られるなど学習規律・学習習慣にも課題がある。

平成27年度の全国学力・学習状況調査では、算数A・Bともに全国比を若干上回っていた。しかし、学習課題に対して、計算式を使って答えを出すことはできても、その過程を筋道立てて説明したり、記述式の問題に解答したりすることが苦手な児童が多く、思考力・表現力への課題が浮き彫りになった。また、12月の県学習状況調査の結果からも、題意や条件に即した解答や文章が書けない、様々な表現方法を獲得できていない等、表現力に課題が見られる。

そこで、これらの社会的要請、これまでの実践や本校児童の実態を考慮し、「基礎的・基本的な知識・技能の獲得」「主体的に学習に取り組む態度の育成」「思考力・判断力・表現力の育成」を目指して問題解決型学習を軸に自分の考えを図、式、数、言葉などを使って表現し、学び合う学級集団をつくるような授業改善を行っていくことで児童の思考力・判断力・表現力を伸ばし、活用力の向上につなげることができると考え、本主題を設定した。

今年度は特に、「自分の考えを、図、式、数、言葉などを使って表現する活動」に重点を置き、日々の授業、授業研究会を通して思考力・判断力・表現力の向上を図る。

そこで、以下の3つの柱を中心に学力向上の取組を行う。

- ① 算数的活動を通して自分の考えを持ち、表現する場を設けた授業実践
- ② 学習規律の確立
- ③ 家庭学習の充実

2 研究主題の考え方

(1)「基礎・基本の定着」とは

基礎的・基本的な知識・技能、知識・技能を活用して課題を解決するための思考力・判断力・表現力、主体的に学習に取り組む態度。

(2)「自分の考えを表現する活動」とは

根拠を明らかにし筋道を立てて体系的に考えることや、言葉や数、式、図、表、グラフなどの相互の関連を理解し、それらを適切に用いて問題を解決したり、自分の考えを分かりやすく説明したりすること。

3 研究の目標

各学年の発達段階に応じた算数的活動を取り入れ、課題に対して基礎的・基本的な知識・技能を活用しながら自分の考えを表現し、互いの考えを比較し合う活動を取り入れた授業を展開していくことで、自ら学ぶ児童の育成をめざす。

4 研究の仮説

算数科の授業において、次のような手立てをとれば、数学的な思考力・判断力・表現力が育ち、自ら学ぶ児童の育成につながるであろう。

- (1) 単元を見通した指導計画の中に思考力・判断力・表現力を育てる場を位置づけ、個に応じた指導を行う。
- (2) 1 単位時間の基本的学習過程（つかむ、見通す、さぐる、練り合う、振り返る）を組み、算数的活動を通して児童相互が考えを交流できる場を設定し、ねらいにせまるような指導にあたる。

5 研究の内容と方法

(1) 算数的活動を通して自分の考えを持ち、表現する場を設けた授業実践

- ア 1 単位時間の授業において、基本的な学習過程（つかむ、見通す、さぐる、練り合う、振り返る）を組み、各学習活動場面の手立てを工夫する。
- イ 単元の始めに、前単元や前学年までの学習内容の系統を把握し、児童の知識・技能及び数学的な考え方・表現力をみるレディネス調査を行い、授業に生かす。
- ウ 算数アンケートの実施と分析。
- エ 問題提示や意見交流の場、確かめなど、学習過程における I C T 機器の効果的な活用を図る。
- オ 朝の時間「いまりっ子タイム」の効果的な活用。
- カ 全体授業研究会を実施し、全員が研究授業に関わっていく体制をつくり、授業の参観をし合うことで、授業力向上に努める。また、講師を招いて研究内容についての指導を受ける。

(2) 学習規律の確立

- ア 学習用具の整備。
- イ 意欲ある学習態度の育成。

(3) 家庭学習の充実

- ア 家庭学習の内容と方法の確立。
- イ 家庭との連携の工夫。